

CT検査を受けられる方へ

ー当院の被ばく線量低減の取り組みー



放射線を利用した診断・治療は国民の健康に多大な恩恵をもたらしているが、一方で患者さんの医療被ばくが増加しており、国民全体では特にエックス線 CT（以後、CT）による放射線被ばくが最も多い。放射線診療に関わる者には、放射線利用の有効性を損なうことなく必要以上の被ばくを避け、医療被ばくを低減することが求められるが、これは特に CT について重要です。

そのため、当院では以下の取り組みによってCT検査による被ばく低減を行い、また確認し、患者さんが安心して検査を受けられるよう努めています。

●当院のCT装置は、逐次近似法を応用した次世代型低被ばく画像再構成法「iDose」を搭載しています。iDoseは、この逐次近似法を応用した当院CT装置メーカー独自の画像再構成法であり、最大80%の被ばく低減を行っても従来と同等の画質を得ることができる次世代画像再構成法であります。そのため、従来より少ない線量で以前と同じような画像を得ることができます。

●医療機関における放射線診断で、患者さんが受ける放射線量が適切であるかを判断するための指標があり、これを診断参考レベルと言います。この指標と当院のCT被ばく線量を部位別に、また定期的にチェックを行い、過度の被ばくを防ぐように検査をしています。

診断参考レベル 2025

	CTDI (mGy)
頭部	67
胸部	11
腹部	14

当院の被ばく線量

	CTDI (mGy)
頭部	58
胸部	11
腹部	14

今後も患者さんが安心して検査を受けられるよう、被ばく線量の低減に努めてまいります。

